

図書館だより 1月号

令和5年1月26日
万代高校図書館

2023年が始まりました。卯年にあやかって、長い耳で新しい情報や楽しいことをキャッチして、軽やかなフットワークで新たなステージに飛び込んでいけるような一年にしたいものですね。

季節はずれかもしれませんが、自宅でタネから育てたミニトマトが、最近ようやく赤い実をつけ始めました。毎日水や肥料をあげて世話をした末の収穫はとても感動的で、その味はお店で売っているものに負けないほど、美味しく感じられました。次々に実がなるので、今後しばらくはトマトレシピが続きそうです。

思いがけないおすそ分けで、野菜をたくさんいただくこともあります。白菜、大根、ごぼうに里芋、にんじん…おでんにしたり、お鍋にしたり、焼いて食べたり…かなり楽しませてもらいました。誰かが手をかけて育てたものの生命力を分けてもらって、日々生かされているのだなあ、などと少し大げさなことを思ったりしました。

寒い冬は特に、体を温めてくれるアツアツの料理や食材を楽しめる季節ですね。食材そのものはもちろん、それを育てる人、売ってくれる人、料理してくれる人たちのことを考えてみるのも良いと思います。自分が作ったものを誰かに振る舞うのも素敵ですね。今月は、そんなテーマで本をご紹介します。としたいと思います。

図書館司書 楠



千の扉あけて

第19章

本の表紙を開いて最初に現れる、タイトルの書かれたページのことを「扉(とびら)」と呼びます。本を開くことは、いろんな世界、いろんな物語、いろんな知識へとつながる扉を開くこと。これから皆さんを、無数にある扉のひとつへのご案内します。それをあけるかどうかは、あなた次第。ですが一冊の本の世界を旅した時、きっとそれ以前とは変わっている自分に気づくでしょう。今回の「扉」は…

『あらしのよるに』

木村裕一 著
あべ弘土 絵
講談社

E
A



「食べる者」と「食べられる者」との間に、友情は成立するのでしょうか？ なかなか深いテーマを扱った児童文学のロングセラーを紹介します。

嵐の荒れ狂う夜に、壊れかけた小屋でオオカミとヤギが会う。けれども真っ暗闇でお互いの姿は見えないまま。嵐をやり過ごしながら会話を楽しむうちに、互いの共通点を見つけ意気投合した2匹は「明日のお昼ご飯を一緒に食べよう」と約束し、夜明け前に別れる。「あらしのよるに」を、再会の合言葉にして…

小・中学校で読んできた人もいます。オオカミは相手が好物のヤギだと知らず、ヤギは相手が天敵のオオカミだと知らないままに友達になります。再会したとき、どうなるんだろう…と読者はハラハラしてしまいます。「友達を食べるわけにいかない」と、本能と理性の狭間で葛藤するオオカミ。友達を怖がったり、疑ったりする自分を恥じるヤギ。どちらの姿も愛おしく、この友情を応援したくなります。シリーズ7巻ありますので、「懐かしい」と思った人も「知らなかった」という人も、ぜひ手に取ってみてください。

それではまた、次の扉でお会いしましょう！



PICK UP! 「おいしい本」

寒い季節、温かい料理や甘いお菓子で身も心も満たされたいですね。見ているだけでお腹が空いてしまいそうな、料理やお菓子づくりの本を集めました。



『印度カレー子のスパイススープ』

印度カレー子 著 世界文化社



寒い日に欲しくなる「スープ」と、体を温めてくれる「スパイス」が合体したら最&高です！スパイスといえばカレーを連想しますが、それだけではないバリエーション豊かな「からくない」お料理の数々。この冬、一度は試して欲しい、おすすめの一冊。

『おうちで作れる かわいいおすし』

松尾みゆき 著 河出書房新社



「おすしを家で？そもそも自分で作れるの？」とってしまいますよね。この本では、職人さんが作るような握りずしではなく、ラップや身近な道具と食材で作れる「手まりずし」や「押しずし」が紹介されています。チャレンジしたくなりますよ。

『CHOCOLATE BAKE』

ムラヨシマサユキ 著 主婦と生活社



お菓子を作ろうと思ったとき、ハードルになるのは「特別な材料と道具がないと作れない」ことですね。この本では、市販の板チョコと身近な材料で「混ぜて焼くだけ」のレシピが集められています。クッキー、スコーン、ブラウニーなど、難しそうと思っていたものも「これならできるかも」という気にさせてくれます。出来上がりの写真もオシャレ！

「こんな本を探している」「こんな本を紹介して」などの質問・相談、また「こんな本を置いて欲しい」というリクエストもどうぞ。読んだ本の感想や、好きな本の話も聴かせてくださいね！

